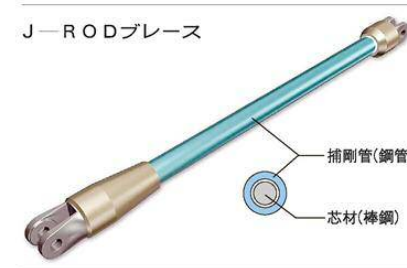


JFEスチールとJFEシ
ビルは、座屈拘束ブレース
「J-RODブレース」を開
発した。芯材に棒鋼を使つこ
とで、従来品と比べて外径を
2〜3割小さくし、よりスレ
ンターな形状を実現。建物の
外壁や窓面への取り付けに適
したブレースとしてデザイン
性をさらに高めた。全部品を
ねじで接合し、溶接すること
なく簡単に組み立てることが
できるため大幅な生産効率の
向上にも一役買う。

ブレースは、一般的に柱や
梁の間に斜めに設置し、鉄骨
造の建築物に強度をもたせ
る。座屈拘束ブレースは柱や
梁から伝わる圧縮力を負担す
る芯材と、圧縮時に芯材の座
屈を防止するための補鋼材で
構成する。これまでJFEシ
ビルは、芯材と補鋼材ともに
鋼管を使った「二重鋼管座屈
補剛ブレース」を製造・販売
しており、1994年の販売
開始以来主力のロングラン商
品として累計約1200物件
に採用されている。



今回開発した「J-ROD
ブレース」はさらに外径を小
さくしたが、両社は共同で独
自の補鋼工法を構築し、座屈
を防止しているという。こう
した工法は3月、日本建築総
合試験所から構造安全性と設
計法、仕様が適切であると認
められ、建築技術性能証明を
取得した。

外径2、3割小さく

座屈拘束ブレース開発

JFEスチール



建設通信新聞

2016年07月28日 003面 01版 No.07